

乗務員合理化反対を闘おう

日刊 動労千葉

83. 6. 1

No. 1353

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

勝浦支部ヤリ回定期委員会開催5月28日



勝浦支部第五回定期委員会は、五月二八日運転区講習室において開催、委員会には、本部より水野副委員長・吉岡組織部長・鶴岡特執が、また、今年の統一地方選に船橋市議に立候補しみごと高位当選した中江昌夫氏が来賓として出席した。



支部通信員・発

組合員一人一人が決起しよう

鶴岡支部長・水野本部副委員長が挨拶

鶴岡支部長は「今日国鉄労働者への攻撃は『ヤミ・カラ』攻撃を始めとして仲裁差別攻撃として行われてきている。政府・自民党は、国会内での多数をよりどころとして、軍事大国化・改憲をもくろんでいる。83春闘は、ストなし春闘として終結したが、我々の83春闘政治決戦は、中江選挙をかちとった。これは、動労千葉の組織をかけた闘いであり中江勝利は、動労千葉の成果として、広範な労働者の中に拡がっている。また、これからの闘いとして、乗務員運用合理化に対する闘いがある。国鉄労働運動の命運をかけた闘いとして取り組んでいく。勝浦としては、外房複線時を見ずえ乗務員分科を中心に学習会等をつみあげ、組合員一人一人が決起して行こう」とあいさつした。本部を代表して水野副委員長は、「六月四日仲裁が出されるが、額については調停で出された数字に落着くだろう。合理化とからめさせてはならない。今年は、「昇給協定」が切れるので昇給交渉が重要となってくる。国鉄監理委員会が設置されて国鉄労働運動解体に向けて、かつてのマル生以上の激しい攻撃がかけられてくるであろう。組合員一人一人の決起が今こそ必要である」とあいさつした。

三つの敵と闘って勝利した

中江氏があいさつ

続いて中江昌夫氏は、「私は、今度の選挙戦にあたり、三つの敵と闘って勝利した。一つは『本部』動労革マルである。彼らは、自動車をバンクさせ、支持者宅にいやがらせの電話をかけ、推薦人に対する攻撃等を行ってきたが、六〇にわたる労働組合の推薦をかちとり、『本部』との組織戦に勝利してきた。戦後民主主義は、労働運動と農民運動によって支えられてきた。国鉄と三里塚は、日本の民主主義を守る最後の砦である。反核・護憲を全国に拡げ、その中から労働運動の再生をかちとっていく」とあいさつした。

続いて中江選挙の事務局長を務めた吉岡組織部長は、「中江選挙六カ月の闘いの中で、ともする



鶴岡支部長を先頭に、勝浦支部 142名は団結して闘う！

と中ダルミを期した時期に勝浦支部の決起により選挙闘争が引きしまり勝利に結びついた。動労千葉の組織力と行動力を結集したこの闘争は、労働者の闘う展望を切り開いた」とあいさつした。委員会は、支部よりの経過報告と、乗務員の運用合理化に対する闘い及び参院選に向けた取り組みを中心とした方針が提起され、暫定予算とともに満場の拍手により確認され、成功裡に終了した。

参議院議員選挙

千葉地区区・日本社会党公認

「いとひさ八重子」

の必勝をかちとろう！

○ 比例代表（全国区）は政党名で

投票し（日本社会党）、個人名では

無効です。

公示 六月 三日（金曜日）

投票 六月 二六日（日曜日）